



1部77円(税込み)

対がん協会報

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

第703号

2021年(令和3年)
7月1日(毎月1日発行)主な
内容

- 2面 2021年度評議員会を開催
新理事長に梅田氏
- 4面 RFLJイベント
高松でハイブリット開催
- 5面 JCSD講演の動画を公開
「世界から見た日本のがん」

新型コロナワクチン接種 国のアンケートに30支部が回答

「協力したい」「検診繁忙で困難」 対応、半々に分かれる

新型コロナワクチン接種体制の強化を進める政府が5月末、日本対がん協会など健診8団体に加盟する全国の健(検)診機関に、ワクチン接種への協力が可能かなどを尋ねるアンケート調査を実施した。取りまとめをした内閣官房によると、日本対がん協会グループは30支部から回答があった。「企業等での接種に協力いただけますか」との質問には14支部が「協力したい」、16支部が「依頼があっても協力は難しい」と回答、対応が分かれた。

アンケートは「自治体からワクチン接種への協力要請があったか」「協力している場合、その態様や人員」「今後、企業等での接種が実施される場合、協力いただけるか」などを尋ねるもの。内閣官房で用意したインターネット上

の集計フォームに各支部が直接記入する方式で行われた。

調査があった5月末時点で自治体から集団接種への協力依頼が「あり」と回答したのは20支部、「なし」と回答したのは10支部。「あり」とした20支部のうち、9支部は自施設を接種実施機関として登録したり、職員が自治体の特設接種会場で業務に協力したりしていたが、11支部は「協力は難しい」や回答欄無記入だった。

自治体からの協力依頼が「なし」と回答した10支部のうち、3支部は「依頼があれば協力したい」と回答。6支部は「依頼があっても難しい」、1支部は「依頼時点の(検診の)年間計画次第」と答えた。

2020年(暦年)のがん検診受診者は、

前年比30.5%減と激減した。未受診者に強力な受診勧奨をし、潜んでいるがんが進行がんになる前に早期発見することが最重要課題になっている。企業などからコロナワクチン職域接種の協力依頼があっても「協力は難しい」と回答した16支部が挙げた理由としては、「日程の確保、スタッフの確保が困難」「医療従事者(医師等)が不足している」「健診が繁忙であり、現状では協力することが難しい」など、マンパワーの制約に関するものが多かった。

また、「アナフィラキシーショックの対応ができない」「アレルギー専門医・薬剤師等もいないことから、現在の体制では、実施することが難しい」など、緊急時対応の問題を理由に挙げる回答も目立った。

9月のがん征圧全国大会

宮崎からオンライン中継

日本対がん協会と宮崎県健康づくり協会は、がん征圧月間の9月8日に開催を予定している第54回がん征圧全国大会について、宮崎市の会場と全国の支部をオンライン会議システムで結び、式典などを中継すると決めた。新型コロナウイルス感染症が続く中、参加者の感染防止を考慮した。オンライン

での全国大会は昨年の第53回大会に続き、2度目になる。

宮崎市での全国大会は当初、昨年9月に開催を予定していたが、新型コロナの感染拡大により、今年9月に延期されていた。昨年は東京都内の特設会場と全国の支部、関係機関をオンラインで結んで開催したが、今年は大会開催地の宮

新型コロナ感染防止

崎市から中継することとした。

全国大会のオンライン開催に伴い、前日行事と本大会のプログラムは9月8日に集約され、朝日がん大賞・日本対がん協会賞や永年勤続の表彰式、シンポジウムなどが催される。

2020年度事業報告、決算を承認

新理事長に梅田氏 新理事に中村氏、新評議員に堀江氏

日本対がん協会は6月18日、東京都内で評議員会を開き、2020年度の事業報告と決算が承認された。役員人事では、新しい理事に朝日新聞社長の

中村史郎氏と朝日新聞社取締役の梅田正行氏が選ばれた。

後藤尚雄理事長は同日付で退任し、日本対がん協会顧問への就任が報告さ

れた。その後の理事会で、梅田氏が新理事長に選任された。

就任のご挨拶

日本対がん協会 理事長 梅田正行



「コロナ禍はCOVID-19だけでなく、広く深刻な問題に及んでいるという象徴ですね。ご協力します」

理事長就任のご挨拶を差し上げた放送局の社長がこうおっしゃいました。自社も報道した「がん検診受診者30%減」のニュースに危機感を抱いてのことでした。

数日後、別の放送局では「今朝の情報番組で改めて特集したところですよ」と伺いました。

日本対がん協会のグループ支部が実施してきたがん検診について、協会がまとめた速報調査は、コロナ禍に見舞われた2020年の受診者が対前年比で30%を越す激減傾向にあるという衝撃的な内容でした。

長年にわたってがん検診を推進してきた実績とともに、コロナ禍の下で受診者が激減している事実をいち早く客

観性の高いデータで掘り起こし、社会に訴えかけた対がん協会グループの活動に、報道記者を経験した者の1人として敬服し、共感を抱きました。

感染症対策の制約を受ける中で検診を進め、受診者数のデータを迅速にご提供いただき、また各メディアの取材にも対応いただいた各グループ支部と、正確な情報の発信と警鐘を促進した協会事務局。お互いの経験と信頼に裏打ちされたチームプレーだと感じます。その輪の中に、私も加えていただくことになりました。身の引き締まる思いです。

活動の柱は「がん予防・がん検診の推進」「がん患者・家族の支援」「正しい知識の普及啓発」と多岐にわたります。チームプレーは続きます。コロナ禍の逆境を乗り越えて「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」という思いを実現させるために手を携えさせてください。



うめだ・まさゆき 協会発足と同じ1958年東京生まれ。82年朝日新聞社入社、宮崎支局員。東京・社会部長、経営企画室長などを経て、2013年朝日放送取締役、15年朝日新聞社取締役、17年常務取締役、21年顧問。63歳



理事 中村史郎（なかむら・しろう）



1986年朝日新聞社入社。2019年執行役員編集担当兼ゼネラルマネジャー兼東京本社編集局長。2020年代表取締役副社長 コンテンツ統括／デジタル政策統括／パーティカルメディア事業担当。2021年代表取締役社長。

役員

理事

代表理事 会長 垣添忠生(元国立がんセンター総長)
理事長 梅田正行(朝日新聞社顧問)
常務理事 石田一郎(日本対がん協会業務執行理事)
佐野 武(がん研有明病院 病院長)
中釜 斉(国立がん研究センター理事長)
理事 安斎 隆(東洋大学理事長、セブン銀行特別顧問)
今村 聡(日本医師会副会長)
金井 洋(生命保険協会副会長)
中村史郎(朝日新聞社社長)
山本尚美(資生堂執行役員 クリエイティブ本部長・社会価値創造副本部長)

監事

清水 隆(朝日新聞社常務執行役員財務担当)
杉浦文彦(公認会計士)

評議員

アグネス・チャン(歌手・タレント)、岸本洋子(エッセイスト)、斎藤博(青森県立中央病院医療顧問)、坂下千瑞子(東京医科歯科大学血液内科特任助教)、佐々木常雄(東京都立駒込病院名誉院長)、中川恵一(東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授)、野田哲生(がん研究会がん研究所所長)、藤澤武彦(千葉大学名誉教授、ちば県民保健予防財団理事長)、堀江隆(朝日新聞社取締役)、松浦成昭(大阪国際がんセンター総長、大阪対がん協会会長)、森昌平(日本薬剤師会副会長)、山口建(静岡県立静岡がんセンター総長)、山根則幸(予防医学事業中央会専務理事・事務局長)、山本秀樹(日本歯科医師会常務理事)

厚生労働省

2020年人口動態統計(概数)

がん 40年連続の死因1位

死亡者は37万8356人
前年比1931人増

厚生労働省は、2020年の人口動態統計月報年計(概数)を発表した。死因の第1位はがんで、全死亡者の27.6%を占めた。死亡者のおよそ3.6人に1人はがんが死因となっている。

2020年の死亡数は137万2648人で、前年の138万1093人より8445人減った。死因別でみると、がんは37万8356人で最多。次いで心疾患(高血圧性を除く)が20万5518人、老衰が13万2435人、脳血管疾患が10万2956人

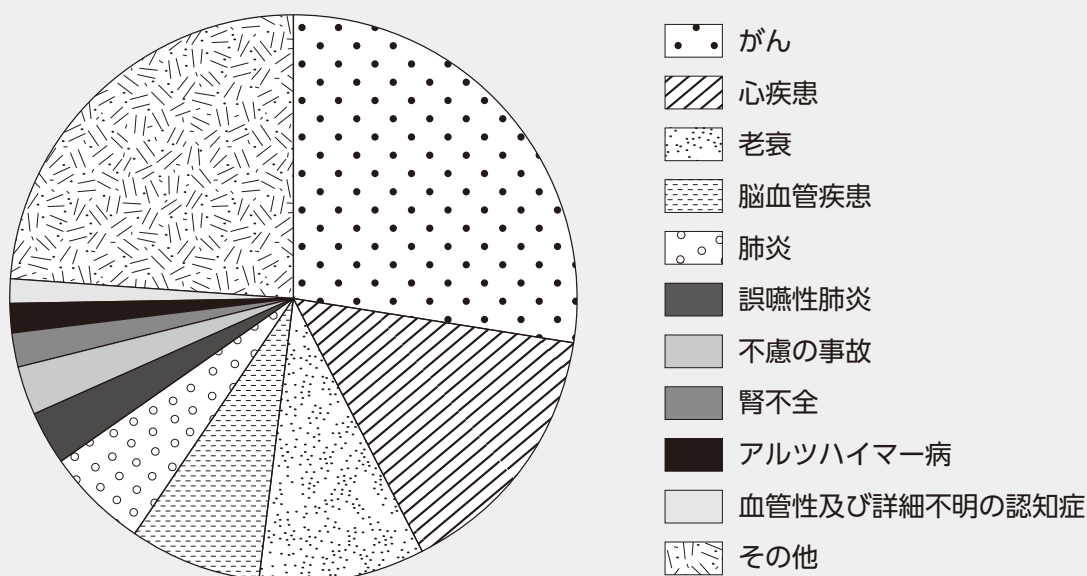
など。肺炎は7万8445人で対前年比1万7073人減だった。新型コロナウイルス感染症は3466人だった。がんは1981年以降、死因順位の第1位となっている。

性別・年齢別で死因をみると、男性、女性ともに5～9歳では、がん和不慮の事故が多かった。男性は10～14歳で自殺とがん、15～29歳で自殺と不慮の事故、30～44歳で自殺とがんが多い。女性は10～34歳で自殺、がん、

不慮の事故が多く、35～49歳でがん、自殺が多い。がんの割合は年齢とともに高くなり、男性では65～69歳、女性では55～59歳がピークになっている。

がんで亡くなった人を部位別でみると、男性は肺がんが5万3244人と最も多く、胃がん2万7769人、大腸がん2万7715人と続いている。女性は大腸がんが2万4069人、肺がんが2万2337人と多くなっている。

主な死因の構成割合



がんの主な部位別にみた死亡数(人口10万対)

(単位:人)

部位		1965年	1975年	1985年	1995年	2005年	2015年	2017年	2018年	2019年	2020年
男性	胃	28,636	30,403	30,146	32,015	32,643	30,810	29,745	28,843	28,043	27,769
	肝	5,006	6,677	13,780	22,773	23,203	19,008	17,822	17,032	16,750	16,271
	すい	1,748	3,155	5,953	8,965	12,284	16,186	17,403	17,938	18,124	18,878
	肺	5,404	10,711	20,837	33,389	45,189	53,211	53,007	52,401	53,338	53,244
	大腸	3,265	5,799	10,112	17,312	22,146	26,819	27,336	27,098	27,416	27,715
女性	胃	17,749	19,454	18,756	18,061	17,668	15,871	15,482	15,349	14,888	14,549
	肝	3,499	3,696	5,192	8,934	11,065	9,882	9,294	8,893	8,514	8,568
	すい	1,318	2,480	4,488	7,054	10,643	15,682	16,826	17,452	18,232	18,796
	肺	2,321	4,048	7,753	12,356	16,874	21,171	21,120	21,927	22,056	22,337
	乳房	1,966	3,262	4,922	7,763	10,721	13,585	14,285	14,653	14,839	14,650
	子宮	6,689	6,075	4,912	4,865	5,381	6,429	6,611	6,800	6,804	6,806
	大腸	3,335	5,654	8,926	13,962	18,684	22,883	23,349	23,560	24,004	24,069

※厚生労働省2020年人口動態統計(概数)より。20年は概数、ほかは確定数。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)

2021年度のスタートは高松!



リアル×オンラインのハイブリッド開催

6月5日、香川県高松市のサンポート高松デグスガレリアにて、本年度初のリレーイベントが開催されました。ワクチン接種が始まったとはい

え、コロナ禍のイベントとして自粛ムード。よって県外の人々の入場制限をしましたが、工夫を凝らして会場とオンラインのハイブリッドです。オンライ

ンであれ心はひとつ。画面を通して見たサバイバーラップと参加者の笑顔に胸が熱くなりました。

RFLJかがわ高松実行委員長
十川美加さんのレポートをご紹介します。

「2年越しのリレーイベントは、6月5日無事に終了しました。コロナ禍で開催するか?しないか?正解がないのでなかなか決断できず、でも中止はいつでも中止にできる、と思い前向きにできる方法を皆で検討しハイブリッドという形で開催しました。

オンライン配信はもちろん初めてでした。当日までどうなることやら心配でしたが、終了後に実行委員会メンバー数名から「コロナ禍でリアルに来場者が少なく寂しいイベントになるかと思っていたけど明るくできましたね!」との声がありホッと胸をなでおろしました。

実はメンバーも皆どうなるか不安だったようです。しかしそんな状況でも、リレーを待つサバイバーのために実施しようと心ひとつになることができました。画面を覗いていた方にも参加している気持ちになっていただけたと思います。

年に1度の締めくくりであるリレーイベントは、再会、1年のお疲れ様、新たな出発に欠かせないものです。開催できたこと、全ての方に感謝です。また来年も必ずお会いしましょう!」



昨年までは「夜越え」をルールとし行われていたリレーイベントですが、今年からは「夜越えを推奨する」とそのルールを変更しました。もちろん時短で

あっても24時間がんと向き合っているサバイバーに寄り添う気持ちにはなんら変わりはありません。状況に合わせて柔軟性をもって、今年もより多くの

方にご支援いただけるリレーを目指してゆきます。

(日本対がん協会事務局長兼RFLマネジャー 岡本宏之)

がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています(祝日を除く)

時間は当分の間、10:00~13:00 15:00~18:00

社会保険労務士による「がん」と就労電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します



社労士による電話相談

態勢縮小のため
電話がつながりにくい
ことがあります。
何卒ご了承ください

がんを知ることから始めよう

JCSD2021講演

「世界から見た日本のがん」公開中

がんサバイバー・クラブ「withキャンサー」テーマに制作

日本対がん協会の「がんサバイバー・クラブ」が主催する今年の「JAPAN CANCER SURVIVORS DAY(ジャパン・キャンサー・サバイバーズ・デイ)2021」は「withキャンサー」がテーマです。がんと共に生きる社会の実現をめざし、がん患者さんやがんサバイバー、家族、周囲の方に向け、がんに関する有益な情報を動画プログラムとしてお届けします。

今回は、『世界から見た日本のがん』と題し、日本対がん協会がん検診研究グループの小西宏プロジェクトディレクターが日本と世界のがん事情を解説した動画を紹介しします。

日本では、生涯のうち2人に1人ががんになり、およそ3～4人に1人ががんで亡くなっています。では、世界はどのような状況なのでしょう。WHO(世界保健機関)のIARC(国際がん研究機関)がまとめたデータによると、世界では毎年、新たにがんと診断される人は約2,000万人、がんが原因

で亡くなる人は約1,000万人にのぼります。一方、日本では、国立がん研究センターのデータによると、新たにがんと診断される人は約109万人(上皮がん含む)、がんで亡くなる人は約37万人です。

部位別に罹患数の多いがんは、世界では肺がん(886万人)、乳がん(226万人)、前立腺がん(220万人)、大腸がん(193万人)、胃がん(108万人)などです。日本では胃がんの罹患数が多いですが、世界では比較的少ない数です。また、がんで亡くなる人は世界でも日本でも肺がん、大腸がんが多いようです。

先進国を中心に前立腺がんが増加傾向にあり、長寿命化の影響と思われます。また、日本も含め、すい臓がんも増加傾向です。日本の罹患数は4万人、死亡数は3万5000人となっており、治療が難しいがんです。

そのほか動画では、日本と各国とのがん検診受診率や生存率などの比較、



小西宏プロジェクトディレクター

解説もしています。動画の中では、さまざまなデータが示され、日本のがん治療の質の高さも見えてきます。がんを正しく知り、がん検診を受けることで、がんを早期に発見し、適切な治療を受けられるようにすることで、助かる命を増やす社会を一緒に作っていきましょう。

今回の動画は「YouTube」(前編：<https://youtu.be/6rmcMMM9fp0> 後編：<https://youtu.be/zMSQDAm3J8w>)で公開中です。今後も年間を通じて動画を公開していきます。(日本対がん協会がんサバイバー・クラブ 濱島明美)

9月11日にオンラインセミナー

「がん治療とスキンケア」

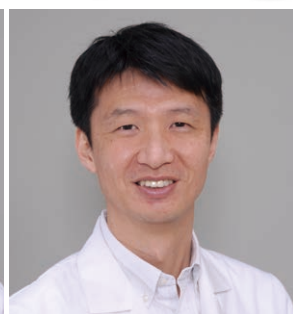
セルフケアのポイントなど解説

がん患者さんやその家族に向けた「がん治療とスキンケア」についてのオンラインセミナー(一般社団法人日本保健情報コンソシウム主催、日本対がん協会後援)が9月11日午後2時から開かれる。抗がん剤や分子標的薬の副作用で起きるさまざまな皮膚障害について専門家が解説し、快適な生活を送るための肌のセルフケアのポイントを学ぶ。

3氏が講演する約1時間半のセミナー。東京大学医科学研究所附属病院腫瘍・総合内科の朴成和教授が「薬物療法に伴う皮膚障害」、国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科の並川健二郎医師が「薬物療法における皮膚障害の



朴成和氏



並川健二郎氏



上原智子氏

マネジメント」、同病院看護部の上原智子がん化学療法認定看護師が「皮膚障害の治療とセルフケア」と題してそれぞれ語る。

参加無料。定員500人。申込みはWebフォーム(<https://form.run/@skin0911>)から。締め切りは8月27日

午後1時。問い合わせは日本保健情報コンソシウム「がん治療とスキンケア」オンラインセミナー事務局(電話03-6228-1895)へ。



申し込みフォーム

がん治療と新型コロナウイルスの抗体

がん患者と健常者を比較

抗体保有率に
差みられず

抗体量は治療歴で違い

国立がん研究センターは6月、がん患者さんの新型コロナウイルスの抗体保有状況や、がん治療と抗体量の関連について、健常者と比較した研究結果を発表した。がん患者さん、健常者ともに抗体保有率は低く、差がない一方、がん患者さんは抗体量が健常者よりも低いことがわかった。がん患者さんでは治療歴によって抗体量の違いが認められ、がん薬物療法が抗体の産生に影響している可能性が示唆された。ただし、現時点で、治療方針を変更するまでの判断はできないという。

がん患者さんは、高齢で合併症を有する割合が高いこと、薬物療法や放射線治療、手術療法などのがん治療によって免疫力が一時的に低下することから、新型コロナに罹患するリスクの上昇、罹患した場合の重篤化が懸念される。一方で、がん患者さんと健常者との抗体保有率や抗体量を比較した大規模研究は世界的にも少なく、がん治療と抗体量との関連などは十分には分かっていないという。

今回の研究は2020年8～10月、がん患者さんの新型コロナの罹患状況とリスク評価を目的に実施。同センター中央病院に通院するがん患者さん500人と健常者(同センター職員)1,190人について、新型コロナの抗体保有率と抗体量を調べた。評価には、臨床検査機器・試薬メーカー「シスメックス」(神

戸市)と共同開発した抗体検出試薬を使った。

その結果、明らかな新型コロナの罹患歴のない場合、抗体保有率はがん患者さん0.4%、健常者(職員)0.42%といずれも低く、差はなかった。一方、抗体量は、がん患者さんは健常者より低いことが分かった。年齢、性別、合併症の有無、喫煙歴といった因子で調整しても差が認められた。

さらに、がん治療が抗体量に与える影響を検証したところ、細胞障害性抗がん剤(*1)を受けているがん患者さんは抗体量が低く、免疫チェックポイント阻害薬(*2)を受けている患者さんは抗体量が高いことが分かった。この結果により、がんの合併、がん薬物療法が抗体の量に影響を与える可能性があることが示唆された。

次に、がん患者さんの抗体量に影響を与える因子を検討した結果、研究参加1カ月以内に細胞障害性抗がん剤を受けた患者さんは抗体量(N-IgG)が低く、免疫チェックポイント阻害薬を受けた患者さんは抗体量(N-IgG、S-IgG)が高いことが分かった。さらに、免疫チェックポイント阻害薬を投与された患者さんでは年齢、性別、合併症の有無、喫煙歴で調整しても、投与されていない患者さんよりも抗体量(N-IgG、S-IgG)が高かった。一方、放射線治療や外科治療の有無による抗

体量の差は認められなかった。

同センターは、がん患者さんと健常者の抗体量の違いが感染、重症化のリスクに影響しているかは不明であり、更なる検討が必要。また、がん患者さんでは細胞障害性抗がん剤や免疫チェックポイント阻害薬の治療歴によって抗体量の違いが認められており、がん薬物療法が抗体の産生に影響を及ぼしている可能性が示唆される。しかし、現時点で治療方針の変更といった判断はできない、としている。

同センターは今後、がん患者さんのワクチン接種の有効性を評価するため、ワクチン接種後の抗体量の推移を調べるとともに、がん治療が抗体の産生に与える影響を調べる。



厚生労働省は2020年12月に東京、大阪、宮城、愛知、福岡の5都府県の住民1万5,043人(東京3,399人、大阪2,746人、宮城2,860人、愛知2,960人、福岡3,078人)を対象に抗体検査を実施。結果は、東京1.35%、大阪0.69%、宮城0.14%、愛知0.71%、福岡0.42%となっている。

*1:細胞が増殖する仕組みの一部を邪魔することで、がん細胞を攻撃する薬。がん以外の正常に増殖している細胞も影響を受ける。

*2:免疫細胞と結合するタイプのがん細胞の邪魔をし、免疫細胞ががん細胞を攻撃できるようにする薬。

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/JCS/>
(ISDNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALIE BOOKS

お問合せ(株式会社バリューブックス): 0120-826-295
受付時間: 10:00-21:00(月～土) 10:00-17:00(日)

禁煙・受動喫煙防止を呼び掛けるリーフレットを新規発行

～日本対がん協会～

禁煙や受動喫煙防止を国内に一層広げるため、日本対がん協会は2021年6月、「禁煙で健康な生活へ」と題した新たなリーフレットを作成しました。希望する自治体や企業・団体に、8月以降、有償でお配りします。

禁煙リーフレットは、協会が現在発行している「がん検診リーフレット」「乳房のセルフチェックリーフレット」と同じタイプでA4判、両面カラー。日本人男性のがんの最大の原因はタバ

コで、喫煙は全身10カ所のがんとの因果関係が確実であること、喫煙は寿命に確実に影響を及ぼすことなどを説明。受動喫煙で亡くなる人は年間約1万5000人にのぼり、肺がんだけではなく脳卒中や子どもの喘息などにも影響を与えることを説明しています。喫煙者が新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクが高いことについても指摘しています。

表紙は「2019年度版禁煙ポスター」

で、人間がタバコに吸われている姿と「吸われているのは人間です」というキャッチコピーがネット上で評判を呼んだ作品です。

消費税と送料込みで1部13円。自治体名や企業名をリーフレットに刷り込むことも有償で可能です。

問い合わせは、日本対がん協会広報担当(電話03・3541・4771、メール:jcsorder@jcancer.jp)まで。



禁煙リーフレット(表)



禁煙リーフレット(裏)

2021
年度

がん征圧ポスター、禁煙ポスターが完成

日本対がん協会の2021年度版「がん征圧ポスター」と「禁煙ポスター」が完成した。9月のがん征圧月間に向け、がん征圧ポスターは例年、高校生以上を対象にしたデザインコンテストを開き、作品を広く募ってきたが、今年度はコンテストが休止された。

がん征圧ポスターは、視力検査をモチーフに、がん(Gan)は見つけにくいことを表し、自覚症状がなくても、定期的にがん検診を受けるよう促す内容。日本対がん協会の2021年度がん征圧スローガン「コロナでも 変わらぬ習慣 がん検診」も盛り込んでいる。

「禁煙ポスター」は、従来の写真を使い、恐怖感のあるデザインから、ユーモアのあるイラストに変更した。「すみません」「す(吸)いません」という似た言葉の言い回しから、ユーモアをまじ

えて禁煙を訴える内容。タバコのない社会の実現を訴える、日本対がん協会のシンボルロゴ「タバコゼロ・ミッショ

ン」と、厚生労働省健康局の受動喫煙対策推進マスコット「けむいモン」のイラストも入っている。



がん征圧ポスター



禁煙ポスター

2018年の
全国
がん登録

新規がん患者数は98万856人

男性は前立腺、女性は乳房、 男女計は大腸が1位

厚生労働省は、2018年の全国がん登録を公表した。同年に新たにがんと診断された人(上皮内がんを除く)は、男性55万8,874人、女性42万1,964人の計98万856人だった。

部位別の罹患数をみると、男性は、前立腺の92,021人(16.5%)が最多。次に胃86,905人(15.6%)、大腸86,414人(15.5%)、肺82,046人(14.7%)、肝26,163人(4.7%)と続いた。この上位

5部位で、男性の全がんの66.8%を占めている。

女性は、乳房93,858人(22.2%)が最も多く、次いで大腸65,840人(15.6%)、肺40,777人(9.7%)、胃39,103人(9.3%)、子宮28,542人(6.8%)、の順。上位5部位が女性の全がんに占める割合は63.5%となっている。

全国がん登録は「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、全国の医療

機関に情報提供を義務付けたもので、2016年から始まった。日本国内の病院などから、初めてがんと診断したと都道府県知事に届け出をされた人や、市区町村長が報告する死亡者情報票から死因ががんとわかった人が登録される。外国人も対象に含まれる。

2017年は男性55万8,869人、女性41万8,510人の計97万7,393人(いずれも上皮内がんを除く)だった。

2018年の部位別の新規がん患者数

部位	罹患数（上皮内がんを除く）			罹患数（上皮内がんを含む）		
	男性	女性	総数※1	男性	女性	総数※1
全部位	558,874	421,964	980,856	613,837	485,309	1,099,164
口腔・咽頭	15,679	6,836	22,515			
食道	21,353	4,565	25,920	23,520	5,125	28,647
胃	86,905	39,103	126,009			
大腸(結腸・直腸)	86,414	65,840	152,254	113,486※2	80,414※2	193,900※2
結腸	53,940	47,309	101,249	73,523※2	57,964※2	131,487※2
直腸	32,474	18,531	51,005	39,963※2	22,450※2	62,413※2
肝および肝内胆管	26,163	12,148	38,312			
胆のう・胆管	11,926	10,275	22,201			
膵臓	21,559	20,800	42,361			
喉頭	4,763	427	5,190			
肺	82,046	40,777	122,825	83,173	42,461	125,636
皮膚	12,391	11,688	24,079	15,241	15,104	30,345
乳房	661	93,858	94,519	724	105,859	106,583
子宮	—	28,542	28,543	—	52,345	52,346
子宮頸部	—	10,978	10,979	—	34,781	34,782
子宮体部	—	17,089	17,089			
卵巣	—	13,049	13,049			
前立腺	92,021	—	92,021			
膀胱	17,555	5,675	23,230	33,841	9,401	43,242
腎・尿路(膀胱除く)	20,193	9,569	29,763			
脳・中枢神経系	3,169	2,766	5,936			
甲状腺	4,790	13,846	18,636			
悪性リンパ腫	19,106	16,670	35,782			
多発性骨髄腫	4,126	3,639	7,765			
白血病	8,359	5,928	14,287			

※1 総数は男女および性別不詳の合計

※2 粘膜がんを含む